

## 研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

### ◎対象となる患者さん：変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、大腿骨頭軟骨下骨脆弱性骨折の方

#### 1、研究の題名『変形性股関節症の病因に関する疫学研究』

主管研究施設：九州大学整形外科

研究期間：2022年4月18日～2026年6月30日

#### 2、研究の目的

変形性股関節症(Osteoarthritis of the hip OA)は種々の原因により股関節軟骨の摩耗、骨質の変化等の退行性変化が生じ、反応性の増殖性変化が加わって関節の変形を来し関節痛、関節可動域制限、Activity of daily living(ADL)低下等の症状を呈する疾患です<sup>1</sup>。過去の小規模疫学調査によりますと、わが国のOAの有病率は1.0～4.3%で女性に多く平均発症年齢は50歳であり、全OA患者の約80%に寛骨臼形成不全の関与が示唆されております<sup>2</sup>。欧米諸国では一次性OAの比率が高く発症年齢も比較的高いため日本独自の疫学研究が必要と考えられております。一方で、1970年頃より発育性股関節形成不全(DDH)予防活動が始まり、乳幼児健康診断でスクリーニング及び早期治療が確立すると、その発生率は出生数の2%から0.2%まで減少しました。また近年、OAの病因として大腿骨寛骨臼インピンジメント症候群(FAI)や大腿骨骨頭軟骨下骨脆弱性骨折(SIF)等の疾患概念が新たに提唱され、OAの疫学に変化が生じているものと考えられます。

以上のような背景から、統一された基準を用いて日本人におけるOAの大規模疫学調査を行う必要性は極めて高く、DDH予防活動開始より50年経過し初期の対象がOA発症年齢となった今日、OA病因の変化を再調査することに大きな疫学的意義があります。

#### 3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間：2022年4月18日～2026年6月30日

#### 4、本研究で使用する情報について

本研究に関して 診療記録 から 以下の情報を取得します。

年齢、性別、身長、体重、患側(左右)、病因(一次性、形成不全、大腿寛骨臼インピンジメント、大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、外傷、骨系統疾患)、股関節治療歴、股関節疾患家族歴、発症年齢、スポーツ歴、臨床評価(日本整形外科学会股関節機能判定基準(JOA Hip Score)、modified Harris Hip Score)

単純 X 線画像所見骨棘、骨嚢胞、軟骨下骨硬化像、Upsloping sourcil、Pistol grip deformity、Cross-over sign、Herniation pit、Sharp angle、Lateral center-edge angle、Acetabular roof oblique、Acetabular-Head index、Alpha angle

## 5、取得情報の利用範囲

研究責任者:九州大学大学院医学研究院整形外科学分野 助教 佐藤 太志

## 6、本研究の責任者

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

研究責任者:九州大学大学院医学研究院整形外科学分野 助教 佐藤 太志

当院責任者:整形外科 部長 原 俊彦

## 7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(研究事務局)

担当者:九州大学病院整形外科 助教 佐藤 太志

連絡先:[TEL]092-642-5488(内線 5488)

[FAX]092-642-5507

メールアドレス:sato.taishi.075@m.kyushu-u.ac.jp

(当院連絡先)

担当者:整形外科 部長 原 俊彦

連絡先:[TEL]0948-22-3800(代表)